

タイトル	みんなちがってみんないい		
氏名	垣谷 さとみ		
学校名	和歌山市立岡崎小学校		
担当教科	—		
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	全6時間
対象生徒学年	6年2組	対象人数	32人

**カリキュラム案**

(1) 実践の目的

- ・自分とは違う背景を持つ相手についての理解を深め、認め合い、共に生きようとする態度を育む。
- ・世界の国々、人々とのつながりの中で自分たちが生きていることを知り、より良く生きようとする態度を育む。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>第1次「タンザニアってどんな国？」</b>		
第1時 モノからタンザニアを想像しよう	① タンザニアのモノを見てそれが何に使われるのかを想像する ② カンガに書かれたことわざを知る ③ 好きなことわざを決め、理由をグループで話す 日本にあることわざを発表する ④ カンガを着る：日本のふろしきとカンガを比べる ⑤ 感想を書く（驚きや疑問、知りたいこと）	楽器（親指ピアノ） カンガ マコンデ彫刻 （ろうそく立て、栓抜き、ナイフ）
第2時 写真からタンザニアを想像しよう	① 子どもたちのアフリカに対するイメージのアンケートの結果を発表する ② 3枚の写真を見て、気づいたことや疑問に思ったことなどを発表する （携帯電話、電気、国土の広さ、食べ物の豊富さ） ③ どれが自分のアフリカのイメージに合っているか発表する ④ 感想を書く	写真

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
第3時 タンザニアの子たち を知ろう	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもたちのダンスを見る</li> <li>② 写真を見て気づいたことを発表する</li> <li>③ 日本とタンザニアの子どもの生活の様子を述べた文を分類する</li> <li>④ 生活の様子を比較して感想を発表する</li> </ol>	写真 パネル
第4時 タンザニアの動物たちとマサイについて 知ろう	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 動物の動画をみる</li> <li>② 写真を見て気づいたことを発表する</li> <li>③ マサイの人の暮らしを知る(ビデオ)</li> <li>④ 絵本を読む</li> <li>⑤ マサイの人が困っていることは何か考える(野生動物が村を荒らすようになってきた) →日本でも似ていることが起きている</li> <li>⑥ 感想を書く</li> </ol>	ビデオ 写真 絵本
第2次「日本とタンザニアのつながりを知ろう」		
第1時 自分とタンザニアの つながりを考える 日本とタンザニアと のつながりを考える	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 写真をみる(子どもたちが描いた絵を渡している写真・タンザニアの子どもたちがけん玉をしている写真) ←自分とのつながりを知る(タンザニアの子どもたちがけん玉をして喜ぶ姿が、自分たちと似ていることに気づく)</li> <li>② タンザニアから日本に来ているものを知る(コーヒー等) ←国と国とのつながりを知る コーヒーを飲む</li> <li>③ 日本がタンザニアに輸出しているもの 写真をみる(車等) ←国と国とのつながりを知る</li> <li>④ 写真を見て、日本がお金を出してつくったものが何かを考える(道路、電線、変電所)</li> <li>⑤ 日本とタンザニアが支え合っていることを知る(タンザニアが国際社会の場で日本を支持してくれるなど) →日本が一方向的にタンザニアを支援しているわけではない</li> <li>⑥ 感想を書く</li> </ol>	写真 動画 コーヒー(AFRICAFE)
第2時 青年海外協力隊で活躍する先輩  支援って何?	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 青年海外協力隊について知る (図書館PCインストラクター、セカンダリースクール理数科教師、村落開発普及員) →自分が隊員だったらどうするか考える →隊員が大切にしていることは何か考える</li> <li>② 支援をするときに大切なことは何か考える →インドネシアのコトパンジャンダム 支援がマイナスに働くこともある (NHK「地球データマップ」より)</li> <li>③ 感想を書く</li> </ol>	写真 動画 DVD(奈良テレビの番組)

## 実践授業の詳細

### ① 授業前の子どもの意識

授業をする前の子どもたちのタンザニアに対する知識はほとんどなかったので、アフリカのイメージに関するアンケート調査をした。アフリカのイメージとして、野生動物と暑い気候についての意見が多く挙がった。プラス面では「ダンスが上手、サッカーが盛ん」などの文化に関する意見もあった。しかし、「遅れている、怖い、貧しい」等のマイナスのイメージを持っている子どもも多くいた。子どもたちは、日常生活でタンザニアやアフリカについての情報を得る機会がとて少ないようである。サッカーのワールドカップが行われたことで、アフリカという言葉を目にすることが増えたようだが、治安が良くないこと等がクローズアップされたこともあり、マイナスイメージが多かったように思う。

### ② 指導観

本学級の児童はタンザニアやアフリカについて、あまり知識がなく、マイナスイメージをもつ子もいる。タンザニアについての授業をすることを通して、まずはタンザニアのプラス面に目を向け、タンザニアを好きになってもらいたいと考えた。タンザニアと日本の文化や習慣の違い、人々の暮らしの違いを知るだけでなく、違うことの良さを感じさせたいと思い、本単元を設定した。単元を通して、自分の良さや友達の良さを大切にできる子どもたちになってほしいと願っている。また、タンザニアと日本とのつながりを知ることから、自分たちの生活が世界の中にある遠い国とも関連していることに気づかせたい。また、世界のつながりの中でより良く生きるためには自分が何ができるのかを考えさせたい。

### ③ 授業の詳細

～第1次「タンザニアってどんな国？」第3時「タンザニアの子たちを知ろう」～

#### 1 子どものダンスを見る



#### タンザニアの子どもたちについて知ろう

タンザニアで出会った子どもたちが私たちを迎えてダンスを踊ってくれました。

2 写真を見て気づいたことを発表する

3 写真についての解説を聞く



**子どもたちの暮らしを想像してみよう**

気づいたこと  
疑問に思ったこと  
子どもたちは何をしているの？

(班ごとに違う写真を一枚ずつ配布し、考えさせる。その後、班ごとに発表させる。)

4 日本とタンザニアの子どもの生活の様子を述べた文进行分类する

学校へ歩いていきます。登校時刻は日によって違います。

学校へ歩いていきます。地域の方が安全を見守ってくれます。

ふつうは朝は何も食べないことが多い、チャイ(お茶)を飲みます。

朝はごはんやパン、コーンフレークなどを食べます。食べない日もたまにあります。

学校では朝の会で歌を歌ったり、オルガンやリコーダーなどを演奏したりします。

雨の日は教室は暗くて、とても字がみえにくいです。

1クラス20~40人くらいで、人数が少ない学校では1クラスに5、6人です。

1クラス60~70人で、一つのイスに2人がすわることもあります。

**子どもたちの暮らしを想像してみよう**

子どもたちの暮らしを述べた16個のパネルを1つずつ提示して、それらが日本のものか、タンザニアのものかを考えさせる。

## 5 生活の様子を比較して感想を發表する

### レハマちゃんの日



- ・ 6:00 朝の起床
- ・ (朝日の夕立の洗濯機回す)
- ・ チャイ(お茶)を飲む
- ・ 7:00 学校へ行く
- ・ 8:00 授業を受ける
- ・ 授業が長いので全体的に  
疲れる
- ・ 学校へ行く
- ・ 家に帰る
- ・ 朝の準備
- (夕食をつくる・小さい皿皿の食器、お水ごと)
- ・ 夕食
- ・ 寝る

小さい弟をおんぶしながら、家事を手伝ったりするよ

### アムフレくんの日



- ・ 明るくなる前から水をくみにいくこともある
- ・ 6:00 朝の起床(たきぎをとりに行く)
- ・ チャイ(お茶)を飲む
- ・ 7:00 学校へ行く
- ・ 8:00 授業を受ける
- ・ 休日はみんなでサッカー
- ・ お昼ご飯は食べない
- ・ 家に帰る
- ・ 友達と遊ぶ(砂を掘ったりタイヤで遊んだりする)
- ・ 夕食
- ・ 寝る

おんぶやお茶などの家の  
友達は学校の準備い  
しているよ

### ④ 第1次「タンザニアってどんな国？」の授業を通して

モノランゲージでは、親指ピアノという楽器や動物や人をモチーフにしたマコンデ彫刻を見て、日本とは違う独特の文化に対して興味を示している様子だった。また、カンガが女性の服、赤ちゃんをおんぶすることなどに使われることを知り、くらしの違いにも気づくことができた。モノランゲージを通してタンザニアに対する興味が高まったように思う。タンザニアの子どもたちのくらしについての授業をすると、日本のくらしとの物質的な違いに驚いていた。その違いから、タンザニアの子どもたちはくらしが大変でかわいそうだという意見も出たが、タンザニアは遅れていてかわいそうという感想で終わらせたくなかった。そこで、自分が現地で触れた子どもたちの笑顔や、人と人とのつながりの温かさなどを子どもたちに伝えた。また、日本も少し前は今ほど物質的に豊かではなく、子どもたちも家のために働くのが当たり前であったということも伝えた。すると、はじめ子どもたちは驚いていたが、自分たちが住んでいる日本もタンザニアに似ていたことに気づき、タンザニアが少し近づいて感じられたようだった。フォトランゲージを通して、想像することで写真の表面には現れ出ない、タンザニアの子どもたちのくらしや気持ちも考えることができたと思う。

#### 児童の感想～フォトランゲージ～

- ①カンガ…………用途(物を選ぶ、ターバン、マント、服、テーブルクロス、布団)  
変な言葉(英語?)が書かれている
- ②マコンデ彫刻…キリンや人の顔などの形があって丁寧に細かく掘っていてすごいお守りだと思う
- ③親指ピアノ……弾く棒の場所によって音が変わるので、踊るときに鳴らす楽器だと思う  
ギターに似ている

#### 児童の感想～「タンザニアってどんな国？」の授業を通して～

- ・ あんな厳しい生活をしなければならないなんて大変だと思います。日本のほうが良いと思います。
- ・ 今でも日本の昔のような暮らしをしていてかわいそうだなと思います。日本は幸せな国だと思います。

- ・タンザニアは冬がないことに驚きました。またいろいろな国のことを勉強したいです。
- ・タンザニアの人たちは日本人より働いていて、日本はタンザニアよりずっとぜいたくをしているような気がします。日本では大人は働いているけど、子どもは働いていないし、タンザニアは子どもも手伝いをしていたりして、すごいと思いました。
- ・タンザニアと日本はたくさん違うところがあるけど、保健の先生が「昔の日本もお昼ご飯を食べに帰った人もいてたんやで。」とおっしゃっていて、びっくりしました。
- ・タンザニアの子どもたちは授業のときは英語を使うと聞いて、英語をぼくが覚えたらタンザニアの人たちと一緒に授業を受けられるなあと思いました。
- ・タンザニアの子どもたちはとても仲が良く、家のお手伝いをしてもえらいなと思いました。タンザニアの子どもたちに負けないくらいがんばります。
- ・タンザニアの子どもたちはタイヤで遊ぶと聞いたけど、他にはどんな遊びをするのかなと疑問に思いました。タンザニアってすごいと思いました。
- ・今度スワヒリ語などを習って、タンザニアにも一度行ってみたいです。カンガがとてもかわいくて、私も欲しいなと思いました。
- ・タンザニアの子どもたちはいつも笑顔で元気いっぱいだと思います。それが一番いいことなんじゃないかと思います。今、日本は発達していてタンザニアにはないものがたくさんあります。でも、タンザニアにはあるもので、日本にはないものっていっぱいあると思いました。
- ・大人になったらタンザニアに行ってみたいです。そして、タンザニアの友達が欲しいです。言葉が通じなくても、一緒に遊んだりお互いの文化を教え合ったりすると楽しめると思います。

### 実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

授業を通して、子どもたちはタンザニアのマイナス面だけではなく、プラス面にも気づき、考えが変容してきている。今後の授業では、単にタンザニアのことを知るだけではなく、日本や自分のことと関連付けて考えていけるようにしていきたい。

タンザニアという魅力ある教材を使い、参加型で学ぶことで、子どもたちはたくさんを発見し、疑問をもったと思う。その発見や疑問が、子どもたちが自分を取り巻く環境や、自分と関わりのある世界の国々に目を向けていくきっかけになれば嬉しい。自分自身、タンザニアでの研修、教材作り、授業実践をする中で、多くのことを学ぶことができた。子どもたちだけではなく、大人も含め、国際理解について考え合う場をもち、さらに視野を広げていくことは楽しく、興味深いことだと思う。「タンザニアには問題点もたくさんあるけれど、日本にはないすばらしいものもたくさんある。また、自分たちのくらす日本にも問題点はたくさんある。自分たちが世界のつながりの中でより良くくらすためには、どんなことができるのか。」ということについて、子どもたちと一緒に自分自身も考えていきたいと思っている。

#### 《参考文献》

- ・NHK「地球データマップ」制作班編(2008)『NHK地球データマップ 世界の今から“未来”を考える』NHK出版
- ・栗田和明・根本利通(2006)『タンザニアを知るための60章』